

## 1 はじめに

以前自治会長として又地域の青少年健全育成会長として青少年健全育成活動に携わり、諸行事を計画実施した中での所感を述べたいと思います。

万葉の歌人、山上憶良は「しろがねも くがねも玉も 何せむに まされる宝 子にし かめやも」の反歌を残しております。この意味は、銀も金も、珠玉も どうして優れた宝といえよう 子どもに勝さろうか（注1）。古代より「子どもは家の宝であり、社会の宝でもある」ことを示唆した名言であります。まさに、子どもを慈しむ心は何時の時代にも変わらない親心であります。これこそ健全育成活動の原点ではないでしょうか。

## 2 現状の把握と分析

戦後の日本社会は、個人の尊厳と自由・平等を掲げ、従来の価値観や地域の伝統文化や歴史を軽視し、欧米諸国に追いつけ追い越せを旗印に、経済効率第一主義を掲げ又、学校教育においても科学技術立国を目指し科学技術教育の現代化を図ってきました。その結果驚異的な経済発展を遂げ今日の豊かな社会を実現したことは大きく評価されております。そして、今、核家族化と相まって、急速な少子高齢化社会への移行、そして、パソコン・テレビ・携帯電話・インターネットなどの普及による情報化社会の到来は、誰もが、これまでに経験したことのない価値観の多様化した社会へと変貌しております。

豊かさの反面、多様化した子ども達の心に徳育の面で様々な歪を引き起こしてきました。

子供達にとっても、遊びを通しての自然体験や社会体験などの機会が少なくなり、テレビゲームや各種インターネットサイトなどの擬似的バーチャルな仮想体験のもと、限度を超えた子どものいじめなどが現実の問題として起こっております。

現実社会に於いて児童虐待や、いじめ、引きこもり、登校拒否、キレル子ども、といった現象をよく聞きます。また、ニート「学校にも通わず、就職も家事もしない若者」がいまや社会問題となっております。

青少年のこのような現象の原因は複雑多岐にわたりますが、子ども達の生育過程において少子化・核家族化等による人とのコミュニケーション能力や人とのかかわりを持ち人への関心を高め、よりよい社会を創造するという社会力(注2)の不足が一因として考えられるならば、大変に憂慮すべき事態であります。「ゆとりある教育」のもと学校、家庭、地

域社会の役割を明確にし、豊かな社会体験や自然体験を通して自ら学び自ら考える力や豊かな人間性などの「心を育てる 生きる力」を育むことを目的として学校週五日制が施行されました(注3)。しかし昨今、子供達の学力の低下が叫ばれる中、土曜スクールなども提唱されております。学校現場において特色ある学校作りのもと、長い目で実態の検証が必  
と思われます。このように、子ども達を取り巻く社会環境も大きく変わりつつあります。

### 3 伝統文化の継承の事例

近年地域活動として「伝統文化を尊重し郷土を愛する心」を育てる機運が高まっております。これは若者の地域離れにより地域における伝統芸能や文化の後継者育成が指導者の高齢化による切羽詰った切実な状況を物語っているものと思われます。

実際問題として当地区においても地域の伝統芸能である太々神楽の後継者育成に長年苦慮しております。当地区における伝統芸能後継者育成の事例を紹介致します。

当地区においては平成 16 年度に自治会が主体となって財団法人伝統文化活性化国民協会に「前橋市重要無形文化財である稲荷神社太々神楽の笛」の後継者育成のための子供教室の事業を申請し認可を受けました。神楽保存会や地域の多くの方々や子ども会、子ども育成会の協力を得て、子ども会を対象に7月から2月まで15回にわたり土曜日の午前中、約2時間「植野伝統文化子供教室」を地元公民館で開きました。この教室を開催するねらいは次の四点といたしました。

第一に、子供達が、横笛という実体験を通して、とかく希薄になりがちな地域の人とのかわりや交流を図り社会性を培うこと。

第二に、学校週5日制に対応した事業一環として、太々神楽笛の後継者育成を図り、子供達に太々神楽に興味と関心を持たせること。

第三に、地域の多くの方の協力により町内の活性化を図ること。

第四に、今まで無形であった太々神楽のお囃子の楽譜を冊子にまとめること。これらの目標を実現するため関係者との綿密な打ち合わせを行いました。この教室を開くに当たり神楽の代表的な曲目を音符で表現し子供達に理解できるような教材を作りました。指導者のお年よりの経験によると、小学生の頃、神楽の練習で流れ聞こえてくる曲目を聞いてメロディーを覚え、試行錯誤して練習し、笛の習得をしたとのことですが、今の子供達は音符がないと理解が出来ないとの事で、曲目をドレミ化して指導に当たってくれました。

指導形態は、3人一組のグループに分かれ笛の持ち方、音の出し方を習い、ドレミの発声練習から始めました。最初は音が出ず苦労しましたが、すぐにチューリップの歌を指導者

の演奏に倣い吹けるようになりました。横笛になれるため簡単な童謡を題材にして練習し、回を重ねるごとに上達し指導者が曲目を「レレラドレド レレラーレレ ドドレーミー ドド ……」と口ずさみメロディーを復誦させ曲目の練習を繰り返しました。

毎回10人前後の少人数でしたが15回の教室を終えて、子供達の感想は「横笛がふけるようになってよかった、友達と遊べてよかった。お祭りに神楽の笛を吹きたい。中学生になったらブラスバンドクラブに入ってこのメロディーを吹いてみたい。地域のいろいろなことを教えてもらって楽しかった」等がありました。

また、この事業の一環として保存会や多くの方の協力により、稲荷神社太々神楽の笛と太鼓のメロディーを楽譜にし、伝統芸能音楽教則本として冊子にまとめ、県立図書館等の関係機関や地域の小中学校へ配布し伝統芸能音楽教材として地域文化の紹介が出来たことは、大変有意義なことでありました。また、今後の後継者育成活動に役立つ貴重な資料が作成出来たことは大きな成果であり地域の財産と成りました。

#### 4 地域行事の参加の意義

子ども達が、地域の各種行事に参加することは、祭りや伝統芸能の継承などを通して、学校や家庭では経験できない多くの出会いがあります。そして、助け合いと世代間の交流を通して近隣の人達との多様な幅広い人間関係やコミュニケーション能力や社会力を育てる良い機会が得られます。その意味で、今こそ、学校・家庭・地域社会が互いに連携し、地域の諸行事に多くの児童生徒達が積極的に参加出来る体制や組織作りが必要であります。

こんな現状を鑑み、地域においては、安心安全のまちづくりの視点に立ち、子ども達に地域の伝統行事や様々な地域活動への参加を呼びかけ、自主的、主体的に参加することにより世代を超えた貴重な社会体験を積ませ、家庭や学校の教育力を横糸とし地域の教育力を縦糸として子ども達一人一人が「地域に根ざし 共に生き 心豊かでたくましく 郷土を愛する心」(注3)を育てることが地域の教育力の向上につながると考えられます。

子どもを「社会の宝」としてはぐくみ、「みんなで守ろう、みんなで育てよう地域の子ども」をスローガン(注4)に学校・家庭・地域社会が一層連携し未来を担う青少年の健全育成に努めることが肝要と思われれます。

#### 5 今後の課題

事業を計画し私自身、学校・家庭・地域社会が互いに連携し、子供達が地域の諸行事に積極的に参加出来る体制や組織作りの必要性を痛感しております。事実「伝統芸能子供教

室」に地区の中学生にも呼びかけましたが参加がなかったことは今後の課題として残りました。

県民総ぐるみ運動として提唱された挨拶運動の進め方の中に「地域行事に子供を積極的に参加させます」とあります。(注6)この趣旨は大いに賛成です。しかし、現実の問題として地域で行事を計画し回覧や個別配布して中学生に呼びかけても、理由は様々だと思いますが、参加してくれません。「地域行事に子供を積極的に参加させます」とありますがどのようにして参加をさせるのかという対策が欠けています。

今後の課題として、地域と学校とが連携し中学生にも各自治会単位で中学校区に地区別の組織を作ることが必要ではないでしょうか。組織を通して呼びかければ地域での中学生との交流も連携も図れます。あいさつも自然と交わされます。実際に自治会の行事を計画して感じることは、組織なくしてはどんなに美辞麗句を並べた呼びかけでも所詮は、絵に描いた餅にしか過ぎません。

若者の地域離れを食い止めるためにも育成会組織のように、中学生を組織した連絡協議会のような形態を各中学校のPTA単位で立ち上げて中学生に地域の一員である連帯意識を醸成し、地域の文化の担い手として更なる郷土への愛着をもたせることが今後必要ではないでしょうか。

#### 参考文献

注1 万葉集(2) 日本古典文学全集 小学館

注2 15年度夏の青少年健全育成運動パンフレット

注3 文部科学省パンフレット

注4 これからの青少年健全育成あり方 前橋市青少年問題協議会 基本理念

注5 前橋市青少年健全育成 パンフレット

注6 群馬県教育委員会 県民層ぐるみ運動「あいさつ運動」を進めています。パンフレット

その他 前橋市青少年健全育会資料